

私は今年、大学院に進学しました。

そこでは機械工学のエネルギー分野に関する勉強をしています。

また、勉強と並行して燃焼に関する研究を進めています。

座学においてはもちろんのこと、研究においても装置の使い方やその活用例、

さらには使用する際ミスしやすいポイントなど様々な点で

今まで知りえなかった新しい事柄を知り学ぶ日々を送っています。

将来は、今大学で学んでいるエネルギー分野の

再生可能エネルギー有効活用に関する職業に就きたいと考えております。

中学2年生の時に学志舎に通い始めました。

学志舎では学校のテストや長期休暇の前には、

計画を必ず立てることを教わりました。

計画を立てることも勉強の1つと言われたことが印象に残っています。

“計画を立てる”とは

ただ日数に対してやらなければいけない量を等分するのではなく、

1つ1つの問題の傾向から自身の得意不得意に合わせ

その問題にかかる時間を予測することで、

発揮できる最大を割り当てることだったのです。

今でも1日や1週間といったスパンで計画を立てることで

モチベーションを保ったり時間を有効的に活用したりして

充実した日々を過ごすことができます。



「卒塾生 学志舎で語る」 vol.11

「卒塾生 学志舎で語る」  
バックナンバーはこちら

卒塾生 山田 悠貴

岐阜大学 大学院自然科学技術研究科エネルギー専攻

## 力を何%出せたのか？ 自分で採点する。

点数よりも、大切なものだと思っています。

学志舎では教師のことを「先生」ではなく「コーチ」と呼びます。

「コーチ (coach)」とは「馬車」の意。

ひいては「大切な人を、その目的地まで送り届ける」という意となります。

学志舎で心に残っていることはリレーマラソン大会に参加したことです。

塾に入って初めて参加したイベントでした。

この大会は木曽三川公園に全国から約250チームが集まり、

42.195kmをタスキリレーするものでした。

私たちは同学年10人でチームを作り、1周2kmのコースを2回に分けて走りました。

2回目にタスキを受け取った時、タスキが汗で少しぬれていました。

皆が一息懸命走り、私までつないでくれた証です。

それに応じて走らねば、という思いで次の仲間へとタスキをつなぎました。

一見勉強とは無関係のように感じますが、

同じ学年の生徒とタスキをつなぎゴールまで協力して走ることは、

生徒同士の仲がより深まったり意識しあったりするきっかけになりました。

仲間とつないだ「タスキ」とは、今思えば「心」だったと思います。

そしてこの経験があったからこそ

受験までの間互いに励ましあったり時にはライバルとして共に競い合ったりして

目標に向かって走りきることが出来たと考えております。

大学受験が近づくと、不安から自分の視野が狭まり

コンディションもよい状態に保つことが出来ていませんでした。

その中で、前向きな言葉で、でも気負わないような

優しい言葉をかけてくださった塾長・事務長・そしてコーチの方、

2人3脚で目指すべき目標を示し続けてくれた河合コーチには大変感謝しています。

今は生徒に教える立場のコーチとして働かせてもらっています。

私の見てきたコーチの方々があるべき姿であり、

指標として生徒に対して寄り添い共に成長していけるような

コーチになるべく努力し、生徒に接しています。

悠貴くんは、何事にも誠実に真面目に取り組める生徒だと第一印象で思いました。

マンツーマンでは、センター対策をよく行っていました

が僕のアドバイスを吸収しようと、何度も質問してくれたことをよく覚えています。

どんなことにも真摯に取り組める姿勢は勉強だけでなく、

今後の就活や仕事でも彼のアドバンテージになると思います。

大学に入ることがゴールではなく、まだまだ立ちはだかる困難が

沢山あると感じているのではないのでしょうか。

彼ならひとつひとつ丁寧に課題をクリアし、

目標を達成できると信じています。

今後の彼の飛躍に期待しております。

担当コーチ 河合純兵 消化器外科医



# 学志舎

智をつけよ そして人の為に使わせ



築100年の古民家



1F 小中学生教室



2F 高校教室

〒500-8085 岐阜市白木町92番地

【お問い合わせ】平日10:00～21:00

☎ 058-265-4562



<https://gakushisha.com/>

学志舎

検索